

## 日本のバイオマス事業2件を東京ガスに売却

**2020年8月26日** - Equis Pte Ltd（「エクイス」）は、本日、富山県にある51.5MWの伏木万葉ふ頭バイオマス発電所（「富山プロジェクト」）および千葉県にある75MWの市原八幡ふ頭バイオマス発電所（「市原プロジェクト」）の100%を東京ガス株式会社（「東京ガス」）の100%子会社であるプロミネットパワー株式会社に売却することに合意しました。この取引は、2020年9月に完了する予定です。

富山プロジェクトおよび市原プロジェクト（「本プロジェクト」）は、Equis Asia Fund 2が100%所有しており、東京ガスへの本件売却は、当該ファンドの資産売却計画の一環として行われます。

エクイスは、アジア太平洋地域におけるインフラ資産開発のリーディングカンパニーとして事業を拡大していくにあたり、シンガポールにEquis Development Pte. Ltd.（「エクイスデベロップメント」）を設立しました。エクイスの今後の投資はすべてエクイスデベロップメントを通じて行うこととなります。エクイスは、プライベート・エクイティ・ファンドの形で資金調達を行うことなく、アジア太平洋地域の先進市場において、高品質の再生可能エネルギー、廃棄物処理・リサイクルのインフラ資産のグリーンフィールド開発に注力してまいります。

本プロジェクトの設計・調達・建設は、東洋エンジニアリング株式会社がフルターンキーベースで請け負います。本プロジェクトは、日本の再生可能エネルギー固定価格買取制度（FIT）に基づき、北陸電力株式会社および東京電力株式会社の100%子会社である東京電力パワーグリッド株式会社に対し、20年間、1キロワットアワー当たり24円の価格で全量を販売します。本プロジェクトでは、経済産業省が認めた独立認証機関により認証された木質ペレットを100%使用し、20年間固定数量・固定価格で燃料調達契約を結んでいます。

富山プロジェクトは、2021年10月に商業運転を開始する予定で建設段階にあり、三井住友信託銀行と新生銀行を中心とした9つの金融機関のシンジケート団から232百万米ドル（246億円）のノンリコース・プロジェクト・ファイナンスを調達しました。

市原プロジェクトでは、工事を進めるための着工通知を2020年8月31日に発行し、2020年10月に建設を開始、2024年1月に商業運転を開始する予定です。市原プロジェクトでは、千葉銀行を中心とした20つの金融機関のシンジケート団から、410百万米ドル（435億円）のノンリコース・ファイナンスを調達しています。

本プロジェクトで生産されるエネルギーは、約189,000世帯の需要を満たすことができ<sup>1</sup>、また、石炭火力発電に代替することで、年間約120,900トンの<sup>2</sup>温室効果ガスを削減することが

<sup>1</sup>本プロジェクトは、2020年には997,326,000kWhのエネルギーを生産すると予測されています。Enerdata社のデータによると、2016年5月現在、日本の平均的な家庭では1年間に5,275kWhのエネルギーを消費しています。つまり、本プロジェクトは約18万9,000世帯分の需要を十分に賄えることになります（997,326,000kWh÷5,275kWh）。

<sup>2</sup>Greenhouse Gas Protocolのデータによると、2015年5月時点で、日本の温室効果ガス排出係数は0.0005510トンCO<sub>2</sub>eq/kWhです。予測される428,631トンの温室効果ガス排出量を考慮すると、本プロジェクトは年間約120,900トンの温室効果ガス排出量を削減することになります [(997,326,000kWh \* 0.0005510トンCO<sub>2</sub>eq/kWh) - 428,631トン]。

できます。

エクイスのマネージング・ディレクターであるLance Comesは、“東京ガス殿の「CO<sup>2</sup>ネット・ゼロ」への取り組みに貢献できたことを大変嬉しく思います。エクイスのチームは、日本における持続可能なバイオマスプロジェクトの開発実績を有しており、これらのプロジェクトは、温室効果ガスの排出量を最小限に抑えつつ、安定したベースロード電源として再生可能エネルギー由来の電力を提供し、地域社会にも貢献しています。”と述べています。

エクイスは、国ごとに、再生可能エネルギー、廃棄物事業の開発・運営を手掛ける専門家を採用しており、日本オフィスは23名の人員を擁しています。

エクイスは、今後2年間で、日本、オーストラリア、韓国、台湾の再生可能エネルギーおよび廃棄物関連のインフラ事業に20億米ドル以上の投資を行う予定です。

エクイスは、今後も日本において継続的に事業を展開してまいります。そのコミットメントの一環として、新潟県に50MWの新潟東港バイオマス発電所プロジェクトを、北海道に50MWの苫東バイオマス発電所プロジェクトを、ファンドの形態ではなく、自社プロジェクトとして保有し、開発しています。これらのプロジェクトは、東京ガスに売却した2つのプロジェクトと比べるとまだ開発の初期段階にあり、今後、536百万米ドルの資金を調達し、2021年には建設を開始する予定です。

#### エクイスについて

Equis Development Pte Ltdは、アジア太平洋地域における再生可能エネルギーおよび廃棄物インフラの開発・運営のリーディングカンパニーであり、これまでに200件以上の再生可能エネルギーおよび廃棄物インフラプロジェクトの開発に成功しています。エクイスは、オーストラリア、韓国、日本、シンガポールにオフィスを構え、アジア太平洋地域の先進国市場を中心に事業を展開しています。

#### お問い合わせ先：

エクイスセントラルサービス・ジャパン株式会社  
03-6262-3260 (代表)